

Q001

TRAVEL-0521

運賃と料金の区別 / 4択 / 基礎

運賃と料金の区別に関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 運賃と料金は常に同じ意味である。
2. 運賃は旅行保険料だけを指す。
3. 運賃は移動区間に対する基本的対価、料金は特急・指定席等の追加サービス対価である。
4. 料金は宿泊税だけを指す。

答え・解説

正答：3. 運賃は移動区間に対する基本的対価、料金は特急・指定席等の追加サービス対価である。

解説：運賃と料金の区別では「運賃は移動区間に対する基本的対価、料金は特急・指定席等の追加サービス対価である。」が基本です。

要点：運賃と料金の区別

Q002

TRAVEL-0522

JR片道乗車券 / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、JR片道乗車券で正しい理解はどれか。

1. 出発駅から到着駅まで同一方向に進む基本的な乗車券である。
2. 航空券の乗継証明である。
3. 宿泊予約確認書である。
4. 同一区間を往復する券だけを指す。

答え・解説

正答：1. 出発駅から到着駅まで同一方向に進む基本的な乗車券である。

解説：JR片道乗車券では「出発駅から到着駅まで同一方向に進む基本的な乗車券である。」が基本です。

要点：JR片道乗車券

Q003

TRAVEL-0523

往復乗車券 / 4択 / 標準

往復乗車券に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 鉄道の普通運賃は原則として営業キロ等を基礎に計算される。
2. 同一区間を行きと帰りで利用する乗車券である。
3. 特急列車を利用する場合、乗車券とは別に特急料金が必要となる。
4. 片道区間を複数に分けた券だけである。

答え・解説

正答：4. 片道区間を複数に分けた券だけである。

解説：誤りは「片道区間を複数に分けた券だけである。」。往復乗車券では「同一区間を行きと帰りで利用する乗車券である。」が基本です。

要点：往復乗車券

Q004

TRAVEL-0524

連続乗車券 / 4択 / 応用

次の事例で、連続乗車券の観点から最も適切な対応はどれか。

1. 同じ駅を出発・到着にする往復券だけを指す。
2. 宿泊約款上の連泊割引である。
3. 航空券のオープンジョーだけを意味する。
4. 片道・往復では扱いにくい複数区間を連続して利用する乗車券である。

答え・解説

正答：4. 片道・往復では扱いにくい複数区間を連続して利用する乗車券である。

解説：連続乗車券では「片道・往復では扱いにくい複数区間を連続して利用する乗車券である。」が基本です。

要点：連続乗車券

Q005

TRAVEL-0525

普通運賃計算 / 4択 / 基礎

普通運賃計算に関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 鉄道の普通運賃は原則として営業キロ等を基礎に計算される。
2. ホテルの客室面積だけで決まる。
3. 添乗員の経験年数だけで決まる。
4. 乗車人数にかかわらず旅行者の年齢だけで決まる。

答え・解説

正答：1. 鉄道の普通運賃は原則として営業キロ等を基礎に計算される。

解説：普通運賃計算では「鉄道の普通運賃は原則として営業キロ等を基礎に計算される。」が基本です。

要点：普通運賃計算

Q006

TRAVEL-0526

特急料金 / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、特急料金で正しい理解はどれか。

1. 特急料金は宿泊施設が決める。
2. 特急料金を払えば乗車券は常に不要となる。
3. 特急料金は旅行保険料の別名である。
4. 特急列車を利用する場合、乗車券とは別に特急料金が必要となる。

答え・解説

正答：4. 特急列車を利用する場合、乗車券とは別に特急料金が必要となる。

解説：特急料金では「特急列車を利用する場合、乗車券とは別に特急料金が必要となる。」が基本です。

要点：特急料金

Q007

TRAVEL-0527

指定席料金 / 4択 / 標準

指定席料金に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 指定席は無料で必ず利用できる。
2. 小児は大人の半額相当など、年齢区分に応じた運賃・料金の扱いがある。
3. 寝台設備を利用する列車では、寝台の種類に応じた料金が必要となる。
4. 指定席を利用する場合、自由席と異なる料金設定となることがある。

答え・解説

正答：1. 指定席は無料で必ず利用できる。

解説：誤りは「指定席は無料で必ず利用できる。」。指定席料金では「指定席を利用する場合、自由席と異なる料金設定となることがある。」が基本です。

要点：指定席料金

Q008

TRAVEL-0528

グリーン料金 / 4択 / 応用

次の事例で、グリーン料金の観点から最も適切な対応はどれか。

1. 宿泊施設の入湯税である。
2. グリーン車等の上級設備を利用する場合に必要な料金である。
3. 旅券申請時の手数料である。
4. 普通運賃に必ず含まれ追加不要である。

答え・解説

正答：2. グリーン車等の上級設備を利用する場合に必要な料金である。

解説：グリーン料金では「グリーン車等の上級設備を利用する場合に必要な料金である。」が基本です。

要点：グリーン料金

Q009

TRAVEL-0529

寝台料金 / 4択 / 基礎

寝台料金に関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 寝台料金は国内航空券の空港使用料である。
2. 寝台料金は旅行相談料の別名である。
3. 寝台設備を利用する列車では、寝台の種類に応じた料金が必要となる。
4. 寝台料金を払えば宿泊施設代が不要になる。

答え・解説

正答：3. 寝台設備を利用する列車では、寝台の種類に応じた料金が必要となる。

解説：寝台料金では「寝台設備を利用する列車では、寝台の種類に応じた料金が必要となる。」が基本です。

要点：寝台料金

Q010

TRAVEL-0530

小児の扱い / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、小児の扱いで正しい理解はどれか。

1. 小児はすべての交通機関で無料である。
2. 小児は大人の半額相当など、年齢区分に応じた運賃・料金の扱いがある。
3. 小児は必ず大人と同額である。
4. 小児運賃は海外航空券だけの制度である。

答え・解説

正答：2. 小児は大人の半額相当など、年齢区分に応じた運賃・料金の扱いがある。

解説：小児の扱いでは「小児は大人の半額相当など、年齢区分に応じた運賃・料金の扱いがある。」が基本です。

要点：小児の扱い

Q011

TRAVEL-0531

団体運賃 / 4択 / 標準

団体運賃に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 団体運賃は1名旅行だけに適用される。
2. 予約変更の可否や手数料は運賃種別・航空会社規則により異なる。
3. 一定人数以上が同一行程で利用する場合、団体運賃・割引が設定されることがある。
4. 運賃種別や取消時期により、払戻手数料・取消手数料が発生することがある。

答え・解説

正答：1. 団体運賃は1名旅行だけに適用される。

解説：誤りは「団体運賃は1名旅行だけに適用される。」。団体運賃では「一定人数以上が同一行程で利用する場合、団体運賃・割引が設定されることがある。」が基本です。

要点：団体運賃

Q012

TRAVEL-0532

航空運賃 / 4択 / 応用

次の事例で、航空運賃の観点から最も適切な対応はどれか。

1. 航空運賃はJR営業キロだけで決まる。
2. 航空運賃は宿泊施設が決定する。
3. 国内航空運賃は全国一律で固定される。
4. 国内航空運賃は航空会社・路線・予約条件・時期により変動する。

答え・解説

正答：4. 国内航空運賃は航空会社・路線・予約条件・時期により変動する。

解説：航空運賃では「国内航空運賃は航空会社・路線・予約条件・時期により変動する。」が基本です。

要点：航空運賃

Q013

TRAVEL-0533

航空券の予約変更 / 4択 / 基礎

航空券の予約変更に関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. どの航空券も無料で何度でも変更できる。
2. 予約変更は旅券事務所だけが行う。
3. 予約変更の可否や手数料は運賃種別・航空会社規則により異なる。
4. 航空券は発券後に絶対変更できない。

答え・解説

正答：3. 予約変更の可否や手数料は運賃種別・航空会社規則により異なる。

解説：航空券の予約変更では「予約変更の可否や手数料は運賃種別・航空会社規則により異なる。」が基本です。

要点：航空券の予約変更

Q014

TRAVEL-0534

取消手数料 / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、取消手数料で正しい理解はどれか。

1. 取消手数料は必ずゼロである。
2. 取消手数料は関税の一種である。
3. 運賃種別や取消時期により、払戻手数料・取消手数料が発生することがある。
4. 取消手数料は旅行者が任意に金額を決める。

答え・解説

正答：3. 運賃種別や取消時期により、払戻手数料・取消手数料が発生することがある。

解説：取消手数料では「運賃種別や取消時期により、払戻手数料・取消手数料が発生することがある。」が基本です。

要点：取消手数料

Q015

TRAVEL-0535

旅行見積書 / 4択 / 標準

旅行見積書に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 見積書では旅行代金の総額を隠す。
2. 運賃・料金・宿泊費・手配手数料等を区分し、旅行者が総額を把握できるようにする。
3. 運賃は移動区間に対する基本的対価、料金は特急・指定席等の追加サービス対価である。
4. 温泉地等では宿泊料金とは別に入湯税等が発生することがある。

答え・解説

正答：1. 見積書では旅行代金の総額を隠す。

解説：誤りは「見積書では旅行代金の総額を隠す。」。旅行見積書では「運賃・料金・宿泊費・手配手数料等を区分し、旅行者が総額を把握できるようにする。」が基本です。

要点：旅行見積書

Q016

TRAVEL-0536

宿泊料金 / 4択 / 応用

次の事例で、宿泊料金の観点から最も適切な対応はどれか。

1. 宿泊料金は宿泊日、人数、食事条件、客室タイプなどで変わる。
2. 宿泊料金は旅券の残存期間で決まる。
3. 宿泊料金は全国一律である。
4. 宿泊料金は鉄道営業キロだけで決まる。

答え・解説

正答：1. 宿泊料金は宿泊日、人数、食事条件、客室タイプなどで変わる。
解説：宿泊料金では「宿泊料金は宿泊日、人数、食事条件、客室タイプなどで変わる。」が基本です。

要点：宿泊料金

Q017

TRAVEL-0537

入湯税など / 4択 / 基礎

入湯税などに関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 入湯税は国際航空券に必ず含まれる。
2. 温泉地等では宿泊料金とは別に入湯税等が発生することがある。
3. 入湯税は旅行業者が自由に作る割引名である。
4. 入湯税は旅券申請手数料である。

答え・解説

正答：2. 温泉地等では宿泊料金とは別に入湯税等が発生することがある。
解説：入湯税などでは「温泉地等では宿泊料金とは別に入湯税等が発生することがある。」が基本です。

要点：入湯税など

Q018

TRAVEL-0538

運賃と料金の区別 / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、運賃と料金の区別で正しい理解はどれか。

1. 料金は宿泊税だけを指す。
2. 運賃は旅行保険料だけを指す。
3. 運賃は移動区間に対する基本的対価、料金は特急・指定席等の追加サービス対価である。
4. 運賃と料金は常に同じ意味である。

答え・解説

正答：3. 運賃は移動区間に対する基本的対価、料金は特急・指定席等の追加サービス対価である。

解説：運賃と料金の区別では「運賃は移動区間に対する基本的対価、料金は特急・指定席等の追加サービス対価である。」が基本です。

要点：運賃と料金の区別

Q019

TRAVEL-0539

JR片道乗車券 / 4択 / 標準

JR片道乗車券に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 片道・往復では扱いにくい複数区間を連続して利用する乗車券である。
2. 鉄道の普通運賃は原則として営業キロ等を基礎に計算される。
3. 出発駅から到着駅まで同一方向に進む基本的な乗車券である。
4. 同一区間を往復する券だけを指す。

答え・解説

正答：4. 同一区間を往復する券だけを指す。

解説：誤りは「同一区間を往復する券だけを指す。」。JR片道乗車券では「出発駅から到着駅まで同一方向に進む基本的な乗車券である。」が基本です。

要点：JR片道乗車券

Q020

TRAVEL-0540

往復乗車券 / 4択 / 応用

次の事例で、往復乗車券の観点から最も適切な対応はどれか。

1. 片道区間を複数に分けた券だけである。
2. 特急券を2枚買うことを指す。
3. ホテル2泊分の予約を指す。
4. 同一区間を行きと帰りで利用する乗車券である。

答え・解説

正答：4. 同一区間を行きと帰りで利用する乗車券である。

解説：往復乗車券では「同一区間を行きと帰りで利用する乗車券である。」が基本です。

要点：往復乗車券

Q021

TRAVEL-0541

連続乗車券 / 4択 / 基礎

連続乗車券に関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 片道・往復では扱いにくい複数区間を連続して利用する乗車券である。
2. 宿泊約款上の連泊割引である。
3. 同じ駅を出発・到着にする往復券だけを指す。
4. 航空券のオープンジョーだけを意味する。

答え・解説

正答：1. 片道・往復では扱いにくい複数区間を連続して利用する乗車券である。

解説：連続乗車券では「片道・往復では扱いにくい複数区間を連続して利用する乗車券である。」が基本です。

要点：連続乗車券

Q022

TRAVEL-0542

普通運賃計算 / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、普通運賃計算で正しい理解はどれか。

1. ホテルの客室面積だけで決まる。
2. 鉄道の普通運賃は原則として営業キロ等を基礎に計算される。
3. 乗車人数にかかわらず旅行者の年齢だけで決まる。
4. 添乗員の経験年数だけで決まる。

答え・解説

正答：2. 鉄道の普通運賃は原則として営業キロ等を基礎に計算される。

解説：普通運賃計算では「鉄道の普通運賃は原則として営業キロ等を基礎に計算される。」が基本です。

要点：普通運賃計算

Q023

TRAVEL-0543

特急料金 / 4択 / 標準

特急料金に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 特急料金を払えば乗車券は常に不要となる。
2. グリーン車等の上級設備を利用する場合に必要な料金である。
3. 寝台設備を利用する列車では、寝台の種類に応じた料金が必要となる。
4. 特急列車を利用する場合、乗車券とは別に特急料金が必要となる。

答え・解説

正答：1. 特急料金を払えば乗車券は常に不要となる。

解説：誤りは「特急料金を払えば乗車券は常に不要となる。」。特急料金では「特急列車を利用する場合、乗車券とは別に特急料金が必要となる。」が基本です。

要点：特急料金

Q024

TRAVEL-0544

指定席料金 / 4択 / 応用

次の事例で、指定席料金の観点から最も適切な対応はどれか。

1. 指定席料金は旅行業登録料である。
2. 指定席は無料で必ず利用できる。
3. 指定席料金は航空券の燃油サーチャージである。
4. 指定席を利用する場合、自由席と異なる料金設定となることがある。

答え・解説

正答：4. 指定席を利用する場合、自由席と異なる料金設定となることがある。

解説：指定席料金では「指定席を利用する場合、自由席と異なる料金設定となることがある。」が基本です。

要点：指定席料金

Q025

TRAVEL-0545

グリーン料金 / 4択 / 基礎

グリーン料金に関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 宿泊施設の入湯税である。
2. 普通運賃に必ず含まれ追加不要である。
3. グリーン車等の上級設備を利用する場合に必要な料金である。
4. 旅券申請時の手数料である。

答え・解説

正答：3. グリーン車等の上級設備を利用する場合に必要な料金である。

解説：グリーン料金では「グリーン車等の上級設備を利用する場合に必要な料金である。」が基本です。

要点：グリーン料金

Q026

TRAVEL-0546

寝台料金 / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、寝台料金で正しい理解はどれか。

1. 寝台設備を利用する列車では、寝台の種類に応じた料金が必要となる。
2. 寝台料金を払えば宿泊施設代が不要になる。
3. 寝台料金は国内航空券の空港使用料である。
4. 寝台料金は旅行相談料の別名である。

答え・解説

正答：1. 寝台設備を利用する列車では、寝台の種類に応じた料金が必要となる。

解説：寝台料金では「寝台設備を利用する列車では、寝台の種類に応じた料金が必要となる。」が基本です。

要点：寝台料金

Q027

TRAVEL-0547

小児の扱い / 4択 / 標準

小児の扱いに関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 国内航空運賃は航空会社・路線・予約条件・時期により変動する。
2. 小児は必ず大人と同額である。
3. 小児は大人の半額相当など、年齢区分に応じた運賃・料金の扱いがある。
4. 予約変更の可否や手数料は運賃種別・航空会社規則により異なる。

答え・解説

正答：2. 小児は必ず大人と同額である。

解説：誤りは「小児は必ず大人と同額である。」。小児の扱いでは「小児は大人の半額相当など、年齢区分に応じた運賃・料金の扱いがある。」が基本です。

要点：小児の扱い

Q028

TRAVEL-0548

団体運賃 / 4択 / 応用

次の事例で、団体運賃の観点から最も適切な対応はどれか。

1. 一定人数以上が同一行程で利用する場合、団体運賃・割引が設定されることがある。
2. 団体運賃は1名旅行だけに適用される。
3. 団体運賃は宿泊約款のみ決まる。
4. 団体運賃は旅行者が自由に作れる。

答え・解説

正答：1. 一定人数以上が同一行程で利用する場合、団体運賃・割引が設定されることがある。

解説：団体運賃では「一定人数以上が同一行程で利用する場合、団体運賃・割引が設定されることがある。」が基本です。

要点：団体運賃

Q029

TRAVEL-0549

航空運賃 / 4択 / 基礎

航空運賃に関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 国内航空運賃は航空会社・路線・予約条件・時期により変動する。
2. 国内航空運賃は全国一律で固定される。
3. 航空運賃は宿泊施設が決定する。
4. 航空運賃はJR営業キロだけで決まる。

答え・解説

正答：1. 国内航空運賃は航空会社・路線・予約条件・時期により変動する。

解説：航空運賃では「国内航空運賃は航空会社・路線・予約条件・時期により変動する。」が基本です。

要点：航空運賃

Q030

TRAVEL-0550

航空券の予約変更 / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、航空券の予約変更で正しい理解はどれか。

1. 予約変更は旅券事務所だけが行う。
2. どの航空券も無料で何度でも変更できる。
3. 航空券は発券後に絶対変更できない。
4. 予約変更の可否や手数料は運賃種別・航空会社規則により異なる。

答え・解説

正答：4. 予約変更の可否や手数料は運賃種別・航空会社規則により異なる。

解説：航空券の予約変更では「予約変更の可否や手数料は運賃種別・航空会社規則により異なる。」が基本です。

要点：航空券の予約変更

Q031

TRAVEL-0551

取消手数料 / 4択 / 標準

取消手数料に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 宿泊料金は宿泊日、人数、食事条件、客室タイプなどで変わる。
2. 温泉地等では宿泊料金とは別に入湯税等が発生することがある。
3. 運賃種別や取消時期により、払戻手数料・取消手数料が発生することがある。
4. 取消手数料は必ずゼロである。

答え・解説

正答：4. 取消手数料は必ずゼロである。

解説：誤りは「取消手数料は必ずゼロである。」。取消手数料では「運賃種別や取消時期により、払戻手数料・取消手数料が発生することがある。」が基本です。

要点：取消手数料

Q032

TRAVEL-0552

旅行見積書 / 4択 / 応用

次の事例で、旅行見積書の観点から最も適切な対応はどれか。

1. 見積書は旅行終了後にだけ作成する。
2. 運賃・料金・宿泊費・手配手数料等を区分し、旅行者が総額を把握できるようにする。
3. 見積書では旅行代金の総額を隠す。
4. 見積書には交通費を含めてはならない。

答え・解説

正答：2. 運賃・料金・宿泊費・手配手数料等を区分し、旅行者が総額を把握できるようにする。

解説：旅行見積書では「運賃・料金・宿泊費・手配手数料等を区分し、旅行者が総額を把握できるようにする。」が基本です。

要点：旅行見積書

Q033

TRAVEL-0553

宿泊料金 / 4択 / 基礎

宿泊料金に関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 宿泊料金は旅券の残存期間で決まる。
2. 宿泊料金は全国一律である。
3. 宿泊料金は鉄道営業キロだけで決まる。
4. 宿泊料金は宿泊日、人数、食事条件、客室タイプなどで変わる。

答え・解説

正答：4. 宿泊料金は宿泊日、人数、食事条件、客室タイプなどで変わる。

解説：宿泊料金では「宿泊料金は宿泊日、人数、食事条件、客室タイプなどで変わる。」が基本です。

要点：宿泊料金

Q034

TRAVEL-0554

入湯税など / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、入湯税などで正しい理解はどれか。

1. 温泉地等では宿泊料金とは別に入湯税等が発生することがある。
2. 入湯税は旅券申請手数料である。
3. 入湯税は国際航空券に必ず含まれる。
4. 入湯税は旅行者が自由に作る割引名である。

答え・解説

正答：1. 温泉地等では宿泊料金とは別に入湯税等が発生することがある。

解説：入湯税などでは「温泉地等では宿泊料金とは別に入湯税等が発生することがある。」が基本です。

要点：入湯税など

Q035

TRAVEL-0555

運賃と料金の区別 / 4択 / 標準

運賃と料金の区別に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 運賃と料金は常に同じ意味である。
2. 片道・往復では扱いにくい複数区間を連続して利用する乗車券である。
3. 同一区間を行きと帰りで利用する乗車券である。
4. 運賃は移動区間に対する基本的対価、料金は特急・指定席等の追加サービス対価である。

答え・解説

正答：1. 運賃と料金は常に同じ意味である。

解説：誤りは「運賃と料金は常に同じ意味である。」。運賃と料金の区別では「運賃は移動区間に対する基本的対価、料金は特急・指定席等の追加サービス対価である。」が基本です。

要点：運賃と料金の区別

Q036

TRAVEL-0556

JR片道乗車券 / 4択 / 応用

次の事例で、JR片道乗車券の観点から最も適切な対応はどれか。

1. 宿泊予約確認書である。
2. 出発駅から到着駅まで同一方向に進む基本的な乗車券である。
3. 同一区間を往復する券だけを指す。
4. 航空券の乗継証明である。

答え・解説

正答：2. 出発駅から到着駅まで同一方向に進む基本的な乗車券である。

解説：JR片道乗車券では「出発駅から到着駅まで同一方向に進む基本的な乗車券である。」が基本です。

要点：JR片道乗車券

Q037

TRAVEL-0557

往復乗車券 / 4択 / 基礎

往復乗車券に関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 同一区間を行きと帰りで利用する乗車券である。
2. 片道区間を複数に分けた券だけである。
3. ホテル2泊分の予約を指す。
4. 特急券を2枚買うことを指す。

答え・解説

正答：1. 同一区間を行きと帰りで利用する乗車券である。

解説：往復乗車券では「同一区間を行きと帰りで利用する乗車券である。」が基本です。

要点：往復乗車券

Q038

TRAVEL-0558

連続乗車券 / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、連続乗車券で正しい理解はどれか。

1. 同じ駅を出発・到着にする往復券だけを指す。
2. 片道・往復では扱いにくい複数区間を連続して利用する乗車券である。
3. 宿泊約款上の連泊割引である。
4. 航空券のオープンジョーだけを意味する。

答え・解説

正答：2. 片道・往復では扱いにくい複数区間を連続して利用する乗車券である。

解説：連続乗車券では「片道・往復では扱いにくい複数区間を連続して利用する乗車券である。」が基本です。

要点：連続乗車券

Q039

TRAVEL-0559

普通運賃計算 / 4択 / 標準

普通運賃計算に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. グリーン車等の上級設備を利用する場合に必要な料金である。
2. 鉄道の普通運賃は原則として営業キロ等を基礎に計算される。
3. 指定席を利用する場合、自由席と異なる料金設定となることがある。
4. 乗車人数にかかわらず旅行者の年齢だけで決まる。

答え・解説

正答：4. 乗車人数にかかわらず旅行者の年齢だけで決まる。

解説：誤りは「乗車人数にかかわらず旅行者の年齢だけで決まる。」。普通運賃計算では「鉄道の普通運賃は原則として営業キロ等を基礎に計算される。」が基本です。

要点：普通運賃計算

Q040

TRAVEL-0560

特急料金 / 4択 / 応用

次の事例で、特急料金の観点から最も適切な対応はどれか。

1. 特急料金を払えば乗車券は常に不要となる。
2. 特急列車を利用する場合、乗車券とは別に特急料金が必要となる。
3. 特急料金は宿泊施設が決める。
4. 特急料金は旅行保険料の別名である。

答え・解説

正答：2. 特急列車を利用する場合、乗車券とは別に特急料金が必要となる。

解説：特急料金では「特急列車を利用する場合、乗車券とは別に特急料金が必要となる。」が基本です。

要点：特急料金

Q041

TRAVEL-0561

指定席料金 / 4択 / 基礎

指定席料金に関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 指定席料金は航空券の燃油サーチャージである。
2. 指定席は無料で必ず利用できる。
3. 指定席料金は旅行業登録料である。
4. 指定席を利用する場合、自由席と異なる料金設定となることがある。

答え・解説

正答：4. 指定席を利用する場合、自由席と異なる料金設定となることがある。

解説：指定席料金では「指定席を利用する場合、自由席と異なる料金設定となることがある。」が基本です。

要点：指定席料金

Q042

TRAVEL-0562

グリーン料金 / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、グリーン料金で正しい理解はどれか。

1. 普通運賃に必ず含まれ追加不要である。
2. 旅券申請時の手数料である。
3. 宿泊施設の入湯税である。
4. グリーン車等の上級設備を利用する場合に必要な料金である。

答え・解説

正答：4. グリーン車等の上級設備を利用する場合に必要な料金である。

解説：グリーン料金では「グリーン車等の上級設備を利用する場合に必要な料金である。」が基本です。

要点：グリーン料金

Q043

TRAVEL-0563

寝台料金 / 4択 / 標準

寝台料金に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 寝台料金は国内航空券の空港使用料である。
2. 国内航空運賃は航空会社・路線・予約条件・時期により変動する。
3. 一定人数以上が同一行程で利用する場合、団体運賃・割引が設定されることがある。
4. 寝台設備を利用する列車では、寝台の種類に応じた料金が必要となる。

答え・解説

正答：1. 寝台料金は国内航空券の空港使用料である。

解説：誤りは「寝台料金は国内航空券の空港使用料である。」。寝台料金では「寝台設備を利用する列車では、寝台の種類に応じた料金が必要となる。」が基本です。

要点：寝台料金

Q044

TRAVEL-0564

小児の扱い / 4択 / 応用

次の事例で、小児の扱いの観点から最も適切な対応はどれか。

1. 小児運賃は海外航空券だけの制度である。
2. 小児は大人の半額相当など、年齢区分に応じた運賃・料金の扱いがある。
3. 小児は必ず大人と同額である。
4. 小児はすべての交通機関で無料である。

答え・解説

正答：2. 小児は大人の半額相当など、年齢区分に応じた運賃・料金の扱いがある。

解説：小児の扱いでは「小児は大人の半額相当など、年齢区分に応じた運賃・料金の扱いがある。」が基本です。

要点：小児の扱い

Q045

TRAVEL-0565

団体運賃 / 4択 / 基礎

団体運賃に関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 一定人数以上が同一行程で利用する場合、団体運賃・割引が設定されることがある。
2. 団体運賃は旅行者が自由に作れる。
3. 団体運賃は宿泊約款でのみ決まる。
4. 団体運賃は1名旅行だけに適用される。

答え・解説

正答：1. 一定人数以上が同一行程で利用する場合、団体運賃・割引が設定されることがある。

解説：団体運賃では「一定人数以上が同一行程で利用する場合、団体運賃・割引が設定されることがある。」が基本です。

要点：団体運賃

Q046

TRAVEL-0566

航空運賃 / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、航空運賃で正しい理解はどれか。

1. 国内航空運賃は航空会社・路線・予約条件・時期により変動する。
2. 航空運賃は宿泊施設が決定する。
3. 国内航空運賃は全国一律で固定される。
4. 航空運賃はJR営業キロだけで決まる。

答え・解説

正答：1. 国内航空運賃は航空会社・路線・予約条件・時期により変動する。

解説：航空運賃では「国内航空運賃は航空会社・路線・予約条件・時期により変動する。」が基本です。

要点：航空運賃

Q047

TRAVEL-0567

航空券の予約変更 / 4択 / 標準

航空券の予約変更に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 予約変更の可否や手数料は運賃種別・航空会社規則により異なる。
2. 宿泊料金は宿泊日、人数、食事条件、客室タイプなどで変わる。
3. 運賃・料金・宿泊費・手配手数料等を区分し、旅行者が総額を把握できるようにする。
4. どの航空券も無料で何度でも変更できる。

答え・解説

正答：4. どの航空券も無料で何度でも変更できる。

解説：誤りは「どの航空券も無料で何度でも変更できる。」。航空券の予約変更では「予約変更の可否や手数料は運賃種別・航空会社規則により異なる。」が基本です。

要点：航空券の予約変更

Q048

TRAVEL-0568

取消手数料 / 4択 / 応用

次の事例で、取消手数料の観点から最も適切な対応はどれか。

1. 運賃種別や取消時期により、払戻手数料・取消手数料が発生することがある。
2. 取消手数料は関税の一種である。
3. 取消手数料は必ずゼロである。
4. 取消手数料は旅行者が任意に金額を決める。

答え・解説

正答：1. 運賃種別や取消時期により、払戻手数料・取消手数料が発生することがある。

解説：取消手数料では「運賃種別や取消時期により、払戻手数料・取消手数料が発生することがある。」が基本です。

要点：取消手数料

Q049

TRAVEL-0569

旅行見積書 / 4択 / 基礎

旅行見積書に関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 見積書では旅行代金の総額を隠す。
2. 見積書は旅行終了後にだけ作成する。
3. 運賃・料金・宿泊費・手配手数料等を区分し、旅行者が総額を把握できるようにする。
4. 見積書には交通費を含めてはならない。

答え・解説

正答：3. 運賃・料金・宿泊費・手配手数料等を区分し、旅行者が総額を把握できるようにする。

解説：旅行見積書では「運賃・料金・宿泊費・手配手数料等を区分し、旅行者が総額を把握できるようにする。」が基本です。

要点：旅行見積書

Q050

TRAVEL-0570

宿泊料金 / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、宿泊料金で正しい理解はどれか。

1. 宿泊料金は鉄道営業キロだけで決まる。
2. 宿泊料金は旅券の残存期間で決まる。
3. 宿泊料金は全国一律である。
4. 宿泊料金は宿泊日、人数、食事条件、客室タイプなどで変わる。

答え・解説

正答：4. 宿泊料金は宿泊日、人数、食事条件、客室タイプなどで変わる。

解説：宿泊料金では「宿泊料金は宿泊日、人数、食事条件、客室タイプなどで変わる。」が基本です。

要点：宿泊料金

Q051

TRAVEL-0571

入湯税など / 4択 / 標準

入湯税などに関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 入湯税は国際航空券に必ず含まれる。
2. 温泉地等では宿泊料金とは別に入湯税等が発生することがある。
3. 出発駅から到着駅まで同一方向に進む基本的な乗車券である。
4. 同一区間を行きと帰りで利用する乗車券である。

答え・解説

正答：1. 入湯税は国際航空券に必ず含まれる。

解説：誤りは「入湯税は国際航空券に必ず含まれる。」。入湯税などでは「温泉地等では宿泊料金とは別に入湯税等が発生することがある。」が基本です。

要点：入湯税など

Q052

TRAVEL-0572

運賃と料金の区別 / 4択 / 応用

次の事例で、運賃と料金の区別の観点から最も適切な対応はどれか。

1. 運賃は旅行保険料だけを指す。
2. 料金は宿泊税だけを指す。
3. 運賃と料金は常に同じ意味である。
4. 運賃は移動区間に対する基本的対価、料金は特急・指定席等の追加サービス対価である。

答え・解説

正答：4. 運賃は移動区間に対する基本的対価、料金は特急・指定席等の追加サービス対価である。

解説：運賃と料金の区別では「運賃は移動区間に対する基本的対価、料金は特急・指定席等の追加サービス対価である。」が基本です。

要点：運賃と料金の区別

Q053

TRAVEL-0573

JR片道乗車券 / 4択 / 基礎

JR片道乗車券に関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 航空券の乗継証明である。
2. 同一区間を往復する券だけを指す。
3. 出発駅から到着駅まで同一方向に進む基本的な乗車券である。
4. 宿泊予約確認書である。

答え・解説

正答：3. 出発駅から到着駅まで同一方向に進む基本的な乗車券である。

解説：JR片道乗車券では「出発駅から到着駅まで同一方向に進む基本的な乗車券である。」が基本です。

要点：JR片道乗車券

Q054

TRAVEL-0574

往復乗車券 / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、往復乗車券で正しい理解はどれか。

1. 片道区間を複数に分けた券だけである。
2. 特急券を2枚買うことを指す。
3. 同一区間を行きと帰りで利用する乗車券である。
4. ホテル2泊分の予約を指す。

答え・解説

正答：3. 同一区間を行きと帰りで利用する乗車券である。

解説：往復乗車券では「同一区間を行きと帰りで利用する乗車券である。」が基本です。

要点：往復乗車券

Q055

TRAVEL-0575

連続乗車券 / 4択 / 標準

連続乗車券に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 特急列車を利用する場合、乗車券とは別に特急料金が必要となる。
2. 指定席を利用する場合、自由席と異なる料金設定となることがある。
3. 同じ駅を出発・到着にする往復券だけを指す。
4. 片道・往復では扱いにくい複数区間を連続して利用する乗車券である。

答え・解説

正答：3. 同じ駅を出発・到着にする往復券だけを指す。

解説：誤りは「同じ駅を出発・到着にする往復券だけを指す。」。連続乗車券では「片道・往復では扱いにくい複数区間を連続して利用する乗車券である。」が基本です。

要点：連続乗車券

Q056

TRAVEL-0576

普通運賃計算 / 4択 / 応用

次の事例で、普通運賃計算の観点から最も適切な対応はどれか。

1. 鉄道の普通運賃は原則として営業キロ等を基礎に計算される。
2. 添乗員の経験年数だけで決まる。
3. ホテルの客室面積だけで決まる。
4. 乗車人数にかかわらず旅行者の年齢だけで決まる。

答え・解説

正答：1. 鉄道の普通運賃は原則として営業キロ等を基礎に計算される。
解説：普通運賃計算では「鉄道の普通運賃は原則として営業キロ等を基礎に計算される。」が基本です。

要点：普通運賃計算

Q057

TRAVEL-0577

特急料金 / 4択 / 基礎

特急料金に関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 特急料金は宿泊施設が決める。
2. 特急料金を払えば乗車券は常に不要となる。
3. 特急料金は旅行保険料の別名である。
4. 特急列車を利用する場合、乗車券とは別に特急料金が必要となる。

答え・解説

正答：4. 特急列車を利用する場合、乗車券とは別に特急料金が必要となる。

解説：特急料金では「特急列車を利用する場合、乗車券とは別に特急料金が必要となる。」が基本です。

要点：特急料金

Q058

TRAVEL-0578

指定席料金 / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、指定席料金で正しい理解はどれか。

1. 指定席は無料で必ず利用できる。
2. 指定席を利用する場合、自由席と異なる料金設定となることがある。
3. 指定席料金は旅行業登録料である。
4. 指定席料金は航空券の燃油サーチャージである。

答え・解説

正答：2. 指定席を利用する場合、自由席と異なる料金設定となることがある。

解説：指定席料金では「指定席を利用する場合、自由席と異なる料金設定となることがある。」が基本です。

要点：指定席料金

Q059

TRAVEL-0579

グリーン料金 / 4択 / 標準

グリーン料金に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 一定人数以上が同一行程で利用する場合、団体運賃・割引が設定されることがある。
2. 普通運賃に必ず含まれ追加不要である。
3. グリーン車等の上級設備を利用する場合に必要な料金である。
4. 小児は大人の半額相当など、年齢区分に応じた運賃・料金の扱いがある。

答え・解説

正答：2. 普通運賃に必ず含まれ追加不要である。

解説：誤りは「普通運賃に必ず含まれ追加不要である。」。グリーン料金では「グリーン車等の上級設備を利用する場合に必要な料金である。」が基本です。

要点：グリーン料金

Q060

TRAVEL-0580

寝台料金 / 4択 / 応用

次の事例で、寝台料金の観点から最も適切な対応はどれか。

1. 寝台料金を払えば宿泊施設代が不要になる。
2. 寝台設備を利用する列車では、寝台の種類に応じた料金が必要となる。
3. 寝台料金は旅行相談料の別名である。
4. 寝台料金は国内航空券の空港使用料である。

答え・解説

正答：2. 寝台設備を利用する列車では、寝台の種類に応じた料金が必要となる。

解説：寝台料金では「寝台設備を利用する列車では、寝台の種類に応じた料金が必要となる。」が基本です。

要点：寝台料金

Q061

TRAVEL-0581

小児の扱い / 4択 / 基礎

小児の扱いに関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 小児は必ず大人と同額である。
2. 小児はすべての交通機関で無料である。
3. 小児運賃は海外航空券だけの制度である。
4. 小児は大人の半額相当など、年齢区分に応じた運賃・料金の扱いがある。

答え・解説

正答：4. 小児は大人の半額相当など、年齢区分に応じた運賃・料金の扱いがある。

解説：小児の扱いでは「小児は大人の半額相当など、年齢区分に応じた運賃・料金の扱いがある。」が基本です。

要点：小児の扱い

Q062

TRAVEL-0582

団体運賃 / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、団体運賃で正しい理解はどれか。

1. 団体運賃は宿泊約款でのみ決まる。
2. 一定人数以上が同一行程で利用する場合、団体運賃・割引が設定されることがある。
3. 団体運賃は旅行者が自由に作れる。
4. 団体運賃は1名旅行だけに適用される。

答え・解説

正答：2. 一定人数以上が同一行程で利用する場合、団体運賃・割引が設定されることがある。

解説：団体運賃では「一定人数以上が同一行程で利用する場合、団体運賃・割引が設定されることがある。」が基本です。

要点：団体運賃

Q063

TRAVEL-0583

航空運賃 / 4択 / 標準

航空運賃に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 国内航空運賃は全国一律で固定される。
2. 国内航空運賃は航空会社・路線・予約条件・時期により変動する。
3. 運賃・料金・宿泊費・手配手数料等を区分し、旅行者が総額を把握できるようにする。
4. 運賃種別や取消時期により、払戻手数料・取消手数料が発生することがある。

答え・解説

正答：1. 国内航空運賃は全国一律で固定される。

解説：誤りは「国内航空運賃は全国一律で固定される。」。航空運賃では「国内航空運賃は航空会社・路線・予約条件・時期により変動する。」が基本です。

要点：航空運賃

Q064

TRAVEL-0584

航空券の予約変更 / 4択 / 応用

次の事例で、航空券の予約変更の観点から最も適切な対応はどれか。

1. どの航空券も無料で何度でも変更できる。
2. 予約変更の可否や手数料は運賃種別・航空会社規則により異なる。
3. 航空券は発券後に絶対変更できない。
4. 予約変更は旅券事務所だけが行う。

答え・解説

正答：2. 予約変更の可否や手数料は運賃種別・航空会社規則により異なる。

解説：航空券の予約変更では「予約変更の可否や手数料は運賃種別・航空会社規則により異なる。」が基本です。

要点：航空券の予約変更

Q065

TRAVEL-0585

取消手数料 / 4択 / 基礎

取消手数料に関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 取消手数料は旅行者が任意に金額を決める。
2. 取消手数料は必ずゼロである。
3. 取消手数料は関税の一種である。
4. 運賃種別や取消時期により、払戻手数料・取消手数料が発生することがある。

答え・解説

正答：4. 運賃種別や取消時期により、払戻手数料・取消手数料が発生することがある。

解説：取消手数料では「運賃種別や取消時期により、払戻手数料・取消手数料が発生することがある。」が基本です。

要点：取消手数料

Q066

TRAVEL-0586

旅行見積書 / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、旅行見積書で正しい理解はどれか。

1. 運賃・料金・宿泊費・手配手数料等を区分し、旅行者が総額を把握できるようにする。
2. 見積書では旅行代金の総額を隠す。
3. 見積書には交通費を含めてはならない。
4. 見積書は旅行終了後にだけ作成する。

答え・解説

正答：1. 運賃・料金・宿泊費・手配手数料等を区分し、旅行者が総額を把握できるようにする。

解説：旅行見積書では「運賃・料金・宿泊費・手配手数料等を区分し、旅行者が総額を把握できるようにする。」が基本です。

要点：旅行見積書

Q067

TRAVEL-0587

宿泊料金 / 4択 / 標準

宿泊料金に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 運賃は移動区間に対する基本的対価、料金は特急・指定席等の追加サービス対価である。
2. 宿泊料金は鉄道営業キロだけで決まる。
3. 宿泊料金は宿泊日、人数、食事条件、客室タイプなどで変わる。
4. 出発駅から到着駅まで同一方向に進む基本的な乗車券である。

答え・解説

正答：2. 宿泊料金は鉄道営業キロだけで決まる。

解説：誤りは「宿泊料金は鉄道営業キロだけで決まる。」。宿泊料金では「宿泊料金は宿泊日、人数、食事条件、客室タイプなどで変わる。」が基本です。

要点：宿泊料金

Q068

TRAVEL-0588

入湯税など / 4択 / 応用

次の事例で、入湯税などの観点から最も適切な対応はどれか。

1. 入湯税は旅行者が自由に作る割引名である。
2. 温泉地等では宿泊料金とは別に入湯税等が発生することがある。
3. 入湯税は旅券申請手数料である。
4. 入湯税は国際航空券に必ず含まれる。

答え・解説

正答：2. 温泉地等では宿泊料金とは別に入湯税等が発生することがある。

解説：入湯税などでは「温泉地等では宿泊料金とは別に入湯税等が発生することがある。」が基本です。

要点：入湯税など

Q069

TRAVEL-0589

運賃と料金の区別 / 4択 / 基礎

運賃と料金の区別に関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 運賃は移動区間に対する基本的対価、料金は特急・指定席等の追加サービス対価である。
2. 料金は宿泊税だけを指す。
3. 運賃と料金は常に同じ意味である。
4. 運賃は旅行保険料だけを指す。

答え・解説

正答：1. 運賃は移動区間に対する基本的対価、料金は特急・指定席等の追加サービス対価である。

解説：運賃と料金の区別では「運賃は移動区間に対する基本的対価、料金は特急・指定席等の追加サービス対価である。」が基本です。

要点：運賃と料金の区別

Q070

TRAVEL-0590

JR片道乗車券 / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、JR片道乗車券で正しい理解はどれか。

1. 宿泊予約確認書である。
2. 出発駅から到着駅まで同一方向に進む基本的な乗車券である。
3. 航空券の乗継証明である。
4. 同一区間を往復する券だけを指す。

答え・解説

正答：2. 出発駅から到着駅まで同一方向に進む基本的な乗車券である。

解説：JR片道乗車券では「出発駅から到着駅まで同一方向に進む基本的な乗車券である。」が基本です。

要点：JR片道乗車券

Q071

TRAVEL-0591

往復乗車券 / 4折 / 標準

往復乗車券に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 鉄道の普通運賃は原則として営業キロ等を基礎に計算される。
2. 片道区間を複数に分けた券だけである。
3. 特急列車を利用する場合、乗車券とは別に特急料金が必要となる。
4. 同一区間を行きと帰りで利用する乗車券である。

答え・解説

正答：2. 片道区間を複数に分けた券だけである。

解説：誤りは「片道区間を複数に分けた券だけである。」。往復乗車券では「同一区間を行きと帰りで利用する乗車券である。」が基本です。

要点：往復乗車券

Q072

TRAVEL-0592

連続乗車券 / 4折 / 応用

次の事例で、連続乗車券の観点から最も適切な対応はどれか。（確認2）

1. 同じ駅を出発・到着にする往復券だけを指す。
2. 宿泊約款上の連泊割引である。
3. 航空券のオープンジョーだけを意味する。
4. 片道・往復では扱いにくい複数区間を連続して利用する乗車券である。

答え・解説

正答：4. 片道・往復では扱いにくい複数区間を連続して利用する乗車券である。

解説：連続乗車券では「片道・往復では扱いにくい複数区間を連続して利用する乗車券である。」が基本です。

要点：連続乗車券

Q073

TRAVEL-0593

普通運賃計算 / 4折 / 基礎

普通運賃計算に関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 乗車人数にかかわらず旅行者の年齢だけで決まる。
2. 添乗員の経験年数だけで決まる。
3. 鉄道の普通運賃は原則として営業キロ等を基礎に計算される。
4. ホテルの客室面積だけで決まる。

答え・解説

正答：3. 鉄道の普通運賃は原則として営業キロ等を基礎に計算される。

解説：普通運賃計算では「鉄道の普通運賃は原則として営業キロ等を基礎に計算される。」が基本です。

要点：普通運賃計算

Q074

TRAVEL-0594

特急料金 / 4折 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、特急料金で正しい理解はどれか。

1. 特急料金を払えば乗車券は常に不要となる。
2. 特急列車を利用する場合、乗車券とは別に特急料金が必要となる。
3. 特急料金は宿泊施設が決める。
4. 特急料金は旅行保険料の別名である。

答え・解説

正答：2. 特急列車を利用する場合、乗車券とは別に特急料金が必要となる。

解説：特急料金では「特急列車を利用する場合、乗車券とは別に特急料金が必要となる。」が基本です。

要点：特急料金

Q075

TRAVEL-0595

指定席料金 / 4折 / 標準

指定席料金に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 指定席は無料で必ず利用できる。
2. 指定席を利用する場合、自由席と異なる料金設定となることがある。
3. 小児は大人の半額相当など、年齢区分に応じた運賃・料金の扱いがある。
4. 寝台設備を利用する列車では、寝台の種類に応じた料金が必要となる。

答え・解説

正答：1. 指定席は無料で必ず利用できる。

解説：誤りは「指定席は無料で必ず利用できる。」。指定席料金では「指定席を利用する場合、自由席と異なる料金設定となることがある。」が基本です。

要点：指定席料金

Q076

TRAVEL-0596

グリーン料金 / 4択 / 応用

次の事例で、グリーン料金の観点から最も適切な対応はどれか。

1. 旅券申請時の手数料である。
2. 宿泊施設の入湯税である。
3. 普通運賃に必ず含まれ追加不要である。
4. グリーン車等の上級設備を利用する場合に必要な料金である。

答え・解説

正答：4. グリーン車等の上級設備を利用する場合に必要な料金である。
解説：グリーン料金では「グリーン車等の上級設備を利用する場合に必要な料金である。」が基本です。

要点：グリーン料金

Q077

TRAVEL-0597

寝台料金 / 4択 / 基礎

寝台料金に関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 寝台料金は旅行相談料の別名である。
2. 寝台料金は国内航空券の空港使用料である。
3. 寝台設備を利用する列車では、寝台の種類に応じた料金が必要となる。
4. 寝台料金を払えば宿泊施設代が不要になる。

答え・解説

正答：3. 寝台設備を利用する列車では、寝台の種類に応じた料金が必要となる。

解説：寝台料金では「寝台設備を利用する列車では、寝台の種類に応じた料金が必要となる。」が基本です。

要点：寝台料金

Q078

TRAVEL-0598

小児の扱い / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、小児の扱いで正しい理解はどれか。

1. 小児は必ず大人と同額である。
2. 小児運賃は海外航空券だけの制度である。
3. 小児はすべての交通機関で無料である。
4. 小児は大人の半額相当など、年齢区分に応じた運賃・料金の扱いがある。

答え・解説

正答：4. 小児は大人の半額相当など、年齢区分に応じた運賃・料金の扱いがある。

解説：小児の扱いでは「小児は大人の半額相当など、年齢区分に応じた運賃・料金の扱いがある。」が基本です。

要点：小児の扱い

Q079

TRAVEL-0599

団体運賃 / 4択 / 標準

団体運賃に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 予約変更の可否や手数料は運賃種別・航空会社規則により異なる。
2. 運賃種別や取消時期により、払戻手数料・取消手数料が発生することがある。
3. 団体運賃は1名旅行だけに適用される。
4. 一定人数以上が同一行程で利用する場合、団体運賃・割引が設定されることがある。

答え・解説

正答：3. 団体運賃は1名旅行だけに適用される。

解説：誤りは「団体運賃は1名旅行だけに適用される。」。団体運賃では「一定人数以上が同一行程で利用する場合、団体運賃・割引が設定されることがある。」が基本です。

要点：団体運賃

Q080

TRAVEL-0600

航空運賃 / 4択 / 応用

次の事例で、航空運賃の観点から最も適切な対応はどれか。

1. 国内航空運賃は全国一律で固定される。
2. 航空運賃はJR営業キロだけで決まる。
3. 航空運賃は宿泊施設が決定する。
4. 国内航空運賃は航空会社・路線・予約条件・時期により変動する。

答え・解説

正答：4. 国内航空運賃は航空会社・路線・予約条件・時期により変動する。

解説：航空運賃では「国内航空運賃は航空会社・路線・予約条件・時期により変動する。」が基本です。

要点：航空運賃

Q081

TRAVEL-0601

航空券の予約変更 / 4択 / 基礎

航空券の予約変更に関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 予約変更は旅券事務所だけが行う。
2. どの航空券も無料で何度でも変更できる。
3. 航空券は発券後に絶対変更できない。
4. 予約変更の可否や手数料は運賃種別・航空会社規則により異なる。

答え・解説

正答：4. 予約変更の可否や手数料は運賃種別・航空会社規則により異なる。

解説：航空券の予約変更では「予約変更の可否や手数料は運賃種別・航空会社規則により異なる。」が基本です。

要点：航空券の予約変更

Q082

TRAVEL-0602

取消手数料 / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、取消手数料で正しい理解はどれか。

1. 運賃種別や取消時期により、払戻手数料・取消手数料が発生することがある。
2. 取消手数料は関税の一種である。
3. 取消手数料は旅行者が任意に金額を決める。
4. 取消手数料は必ずゼロである。

答え・解説

正答：1. 運賃種別や取消時期により、払戻手数料・取消手数料が発生することがある。

解説：取消手数料では「運賃種別や取消時期により、払戻手数料・取消手数料が発生することがある。」が基本です。

要点：取消手数料

Q083

TRAVEL-0603

旅行見積書 / 4択 / 標準

旅行見積書に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 運賃は移動区間に対する基本的対価、料金は特急・指定席等の追加サービス対価である。
2. 温泉地等では宿泊料金とは別に入湯税等が発生することがある。
3. 運賃・料金・宿泊費・手配手数料等を区分し、旅行者が総額を把握できるようにする。
4. 見積書では旅行代金の総額を隠す。

答え・解説

正答：4. 見積書では旅行代金の総額を隠す。

解説：誤りは「見積書では旅行代金の総額を隠す。」。旅行見積書では「運賃・料金・宿泊費・手配手数料等を区分し、旅行者が総額を把握できるようにする。」が基本です。

要点：旅行見積書

Q084

TRAVEL-0604

宿泊料金 / 4択 / 応用

次の事例で、宿泊料金の観点から最も適切な対応はどれか。

1. 宿泊料金は旅券の残存期間で決まる。
2. 宿泊料金は宿泊日、人数、食事条件、客室タイプなどで変わる。
3. 宿泊料金は鉄道営業キロだけで決まる。
4. 宿泊料金は全国一律である。

答え・解説

正答：2. 宿泊料金は宿泊日、人数、食事条件、客室タイプなどで変わる。

解説：宿泊料金では「宿泊料金は宿泊日、人数、食事条件、客室タイプなどで変わる。」が基本です。

要点：宿泊料金

Q085

TRAVEL-0605

入湯税など / 4択 / 基礎

入湯税などに関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 温泉地等では宿泊料金とは別に入湯税等が発生することがある。
2. 入湯税は旅行者が自由に作る割引名である。
3. 入湯税は国際航空券に必ず含まれる。
4. 入湯税は旅券申請手数料である。

答え・解説

正答：1. 温泉地等では宿泊料金とは別に入湯税等が発生することがある。

解説：入湯税などでは「温泉地等では宿泊料金とは別に入湯税等が発生することがある。」が基本です。

要点：入湯税など

Q086

TRAVEL-0606

運賃と料金の区別 / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、運賃と料金の区別で正しい理解はどれか。

1. 運賃と料金は常に同じ意味である。
2. 運賃は旅行保険料だけを指す。
3. 料金は宿泊税だけを指す。
4. 運賃は移動区間に対する基本的対価、料金は特急・指定席等の追加サービス対価である。

答え・解説

正答：4. 運賃は移動区間に対する基本的対価、料金は特急・指定席等の追加サービス対価である。

解説：運賃と料金の区別では「運賃は移動区間に対する基本的対価、料金は特急・指定席等の追加サービス対価である。」が基本です。

要点：運賃と料金の区別

Q087

TRAVEL-0607

JR片道乗車券 / 4択 / 標準

JR片道乗車券に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 同一区間を往復する券だけを指す。
2. 片道・往復では扱いにくい複数区間を連続して利用する乗車券である。
3. 鉄道の普通運賃は原則として営業キロ等を基礎に計算される。
4. 出発駅から到着駅まで同一方向に進む基本的な乗車券である。

答え・解説

正答：1. 同一区間を往復する券だけを指す。

解説：誤りは「同一区間を往復する券だけを指す。」。JR片道乗車券では「出発駅から到着駅まで同一方向に進む基本的な乗車券である。」が基本です。

要点：JR片道乗車券

Q088

TRAVEL-0608

往復乗車券 / 4択 / 応用

次の事例で、往復乗車券の観点から最も適切な対応はどれか。

1. 特急券を2枚買うことを指す。
2. 同一区間を行きと帰りで利用する乗車券である。
3. 片道区間を複数に分けた券だけである。
4. ホテル2泊分の予約を指す。

答え・解説

正答：2. 同一区間を行きと帰りで利用する乗車券である。

解説：往復乗車券では「同一区間を行きと帰りで利用する乗車券である。」が基本です。

要点：往復乗車券

Q089

TRAVEL-0609

連続乗車券 / 4択 / 基礎

連続乗車券に関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 同じ駅を出発・到着にする往復券だけを指す。
2. 片道・往復では扱いにくい複数区間を連続して利用する乗車券である。
3. 宿泊約款上の連泊割引である。
4. 航空券のオープンジョーだけを意味する。

答え・解説

正答：2. 片道・往復では扱いにくい複数区間を連続して利用する乗車券である。

解説：連続乗車券では「片道・往復では扱いにくい複数区間を連続して利用する乗車券である。」が基本です。

要点：連続乗車券

Q090

TRAVEL-0610

普通運賃計算 / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、普通運賃計算で正しい理解はどれか。

1. 鉄道の普通運賃は原則として営業キロ等を基礎に計算される。
2. 乗車人数にかかわらず旅行者の年齢だけで決まる。
3. 添乗員の経験年数だけで決まる。
4. ホテルの客室面積だけで決まる。

答え・解説

正答：1. 鉄道の普通運賃は原則として営業キロ等を基礎に計算される。

解説：普通運賃計算では「鉄道の普通運賃は原則として営業キロ等を基礎に計算される。」が基本です。

要点：普通運賃計算

Q091

TRAVEL-0611

特急料金 / 4折 / 標準

特急料金に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 寝台設備を利用する列車では、寝台の種類に応じた料金が必要となる。
2. 特急料金を払えば乗車券は常に不要となる。
3. 特急列車を利用する場合、乗車券とは別に特急料金が必要となる。
4. グリーン車等の上級設備を利用する場合に必要な料金である。

答え・解説

正答：2. 特急料金を払えば乗車券は常に不要となる。

解説：誤りは「特急料金を払えば乗車券は常に不要となる。」。特急料金では「特急列車を利用する場合、乗車券とは別に特急料金が必要となる。」が基本です。

要点：特急料金

Q092

TRAVEL-0612

指定席料金 / 4折 / 応用

次の事例で、指定席料金の観点から最も適切な対応はどれか。

1. 指定席は無料で必ず利用できる。
2. 指定席を利用する場合、自由席と異なる料金設定となることがある。
3. 指定席料金は旅行業登録料である。
4. 指定席料金は航空券の燃油サーチャージである。

答え・解説

正答：2. 指定席を利用する場合、自由席と異なる料金設定となることがある。

解説：指定席料金では「指定席を利用する場合、自由席と異なる料金設定となることがある。」が基本です。

要点：指定席料金

Q093

TRAVEL-0613

グリーン料金 / 4折 / 基礎

グリーン料金に関する記述として、最も適切なものはどれか。（確認2）

1. 宿泊施設の入湯税である。
2. 普通運賃に必ず含まれ追加不要である。
3. グリーン車等の上級設備を利用する場合に必要な料金である。
4. 旅券申請時の手数料である。

答え・解説

正答：3. グリーン車等の上級設備を利用する場合に必要な料金である。

解説：グリーン料金では「グリーン車等の上級設備を利用する場合に必要な料金である。」が基本です。

要点：グリーン料金

Q094

TRAVEL-0614

寝台料金 / 4折 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、寝台料金で正しい理解はどれか。

1. 寝台料金は旅行相談料の別名である。
2. 寝台料金を払えば宿泊施設代が不要になる。
3. 寝台料金は国内航空券の空港使用料である。
4. 寝台設備を利用する列車では、寝台の種類に応じた料金が必要となる。

答え・解説

正答：4. 寝台設備を利用する列車では、寝台の種類に応じた料金が必要となる。

解説：寝台料金では「寝台設備を利用する列車では、寝台の種類に応じた料金が必要となる。」が基本です。

要点：寝台料金

Q095

TRAVEL-0615

小児の扱い / 4折 / 標準

小児の扱いに関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 予約変更の可否や手数料は運賃種別・航空会社規則により異なる。
2. 国内航空運賃は航空会社・路線・予約条件・時期により変動する。
3. 小児は必ず大人と同額である。
4. 小児は大人の半額相当など、年齢区分に応じた運賃・料金の扱いがある。

答え・解説

正答：3. 小児は必ず大人と同額である。

解説：誤りは「小児は必ず大人と同額である。」。小児の扱いでは「小児は大人の半額相当など、年齢区分に応じた運賃・料金の扱いがある。」が基本です。

要点：小児の扱い

Q096

TRAVEL-0616

団体運賃 / 4択 / 応用

次の事例で、団体運賃の観点から最も適切な対応はどれか。

1. 団体運賃は旅行者が自由に作れる。
2. 団体運賃は宿泊約款でのみ決まる。
3. 団体運賃は1名旅行だけに適用される。
4. 一定人数以上が同一行程で利用する場合、団体運賃・割引が設定されることがある。

答え・解説

正答：4. 一定人数以上が同一行程で利用する場合、団体運賃・割引が設定されることがある。

解説：団体運賃では「一定人数以上が同一行程で利用する場合、団体運賃・割引が設定されることがある。」が基本です。

要点：団体運賃

Q097

TRAVEL-0617

航空運賃 / 4択 / 基礎

航空運賃に関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 国内航空運賃は全国一律で固定される。
2. 航空運賃はJR営業キロだけで決まる。
3. 国内航空運賃は航空会社・路線・予約条件・時期により変動する。
4. 航空運賃は宿泊施設が決定する。

答え・解説

正答：3. 国内航空運賃は航空会社・路線・予約条件・時期により変動する。

解説：航空運賃では「国内航空運賃は航空会社・路線・予約条件・時期により変動する。」が基本です。

要点：航空運賃

Q098

TRAVEL-0618

航空券の予約変更 / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、航空券の予約変更で正しい理解はどれか。

1. 予約変更の可否や手数料は運賃種別・航空会社規則により異なる。
2. どの航空券も無料で何度でも変更できる。
3. 予約変更は旅券事務所だけが行う。
4. 航空券は発券後に絶対変更できない。

答え・解説

正答：1. 予約変更の可否や手数料は運賃種別・航空会社規則により異なる。

解説：航空券の予約変更では「予約変更の可否や手数料は運賃種別・航空会社規則により異なる。」が基本です。

要点：航空券の予約変更

Q099

TRAVEL-0619

取消手数料 / 4択 / 標準

取消手数料に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 宿泊料金は宿泊日、人数、食事条件、客室タイプなどで変わる。
2. 温泉地等では宿泊料金とは別に入湯税等が発生することがある。
3. 取消手数料は必ずゼロである。
4. 運賃種別や取消時期により、払戻手数料・取消手数料が発生することがある。

答え・解説

正答：3. 取消手数料は必ずゼロである。

解説：誤りは「取消手数料は必ずゼロである。」。取消手数料では「運賃種別や取消時期により、払戻手数料・取消手数料が発生することがある。」が基本です。

要点：取消手数料

Q100

TRAVEL-0620

旅行見積書 / 4択 / 応用

次の事例で、旅行見積書の観点から最も適切な対応はどれか。

1. 運賃・料金・宿泊費・手配手数料等を区分し、旅行者が総額を把握できるようにする。
2. 見積書には交通費を含めてはならない。
3. 見積書では旅行代金の総額を隠す。
4. 見積書は旅行終了後にだけ作成する。

答え・解説

正答：1. 運賃・料金・宿泊費・手配手数料等を区分し、旅行者が総額を把握できるようにする。

解説：旅行見積書では「運賃・料金・宿泊費・手配手数料等を区分し、旅行者が総額を把握できるようにする。」が基本です。

要点：旅行見積書

Q101

TRAVEL-0621

宿泊料金 / 4択 / 基礎

宿泊料金に関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 宿泊料金は鉄道営業キロだけで決まる。
2. 宿泊料金は全国一律である。
3. 宿泊料金は宿泊日、人数、食事条件、客室タイプなどで変わる。
4. 宿泊料金は旅券の残存期間で決まる。

答え・解説

正答：3. 宿泊料金は宿泊日、人数、食事条件、客室タイプなどで変わる。
解説：宿泊料金では「宿泊料金は宿泊日、人数、食事条件、客室タイプなどで変わる。」が基本です。

要点：宿泊料金

Q102

TRAVEL-0622

入湯税など / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、入湯税などで正しい理解はどれか。

1. 温泉地等では宿泊料金とは別に入湯税等が発生することがある。
2. 入湯税は国際航空券に必ず含まれる。
3. 入湯税は旅行業者が自由に作る割引名である。
4. 入湯税は旅券申請手数料である。

答え・解説

正答：1. 温泉地等では宿泊料金とは別に入湯税等が発生することがある。
解説：入湯税などでは「温泉地等では宿泊料金とは別に入湯税等が発生することがある。」が基本です。

要点：入湯税など

Q103

TRAVEL-0623

運賃と料金の区別 / 4択 / 標準

運賃と料金の区別に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 同一区間を行きと帰りで利用する乗車券である。
2. 片道・往復では扱いにくい複数区間を連続して利用する乗車券である。
3. 運賃と料金は常に同じ意味である。
4. 運賃は移動区間に対する基本的対価、料金は特急・指定席等の追加サービス対価である。

答え・解説

正答：3. 運賃と料金は常に同じ意味である。
解説：誤りは「運賃と料金は常に同じ意味である。」。運賃と料金の区別では「運賃は移動区間に対する基本的対価、料金は特急・指定席等の追加サービス対価である。」が基本です。

要点：運賃と料金の区別

Q104

TRAVEL-0624

JR片道乗車券 / 4択 / 応用

次の事例で、JR片道乗車券の観点から最も適切な対応はどれか。

1. 航空券の乗継証明である。
2. 同一区間を往復する券だけを指す。
3. 宿泊予約確認書である。
4. 出発駅から到着駅まで同一方向に進む基本的な乗車券である。

答え・解説

正答：4. 出発駅から到着駅まで同一方向に進む基本的な乗車券である。
解説：JR片道乗車券では「出発駅から到着駅まで同一方向に進む基本的な乗車券である。」が基本です。

要点：JR片道乗車券

Q105

TRAVEL-0625

往復乗車券 / 4択 / 基礎

往復乗車券に関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 同一区間を行きと帰りで利用する乗車券である。
2. 片道区間を複数に分けた券だけである。
3. 特急券を2枚買うことを指す。
4. ホテル2泊分の予約を指す。

答え・解説

正答：1. 同一区間を行きと帰りで利用する乗車券である。
解説：往復乗車券では「同一区間を行きと帰りで利用する乗車券である。」が基本です。

要点：往復乗車券

Q106

TRAVEL-0626

連続乗車券 / 4折 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、連続乗車券で正しい理解はどれか。
(確認2)

1. 同じ駅を出発・到着にする往復券だけを指す。
2. 片道・往復では扱いにくい複数区間を連続して利用する乗車券である。
3. 宿泊約款上の連泊割引である。
4. 航空券のオープンジョーだけを意味する。

答え・解説

正答：2. 片道・往復では扱いにくい複数区間を連続して利用する乗車券である。

解説：連続乗車券では「片道・往復では扱いにくい複数区間を連続して利用する乗車券である。」が基本です。

要点：連続乗車券

Q107

TRAVEL-0627

普通運賃計算 / 4折 / 標準

普通運賃計算に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 指定席を利用する場合、自由席と異なる料金設定となることがある。
2. グリーン車等の上級設備を利用する場合に必要な料金である。
3. 鉄道の普通運賃は原則として営業キロ等を基礎に計算される。
4. 乗車人数にかかわらず旅行者の年齢だけで決まる。

答え・解説

正答：4. 乗車人数にかかわらず旅行者の年齢だけで決まる。

解説：誤りは「乗車人数にかかわらず旅行者の年齢だけで決まる。」。普通運賃計算では「鉄道の普通運賃は原則として営業キロ等を基礎に計算される。」が基本です。

要点：普通運賃計算

Q108

TRAVEL-0628

特急料金 / 4折 / 応用

次の事例で、特急料金の観点から最も適切な対応はどれか。

1. 特急列車を利用する場合、乗車券とは別に特急料金が必要となる。
2. 特急料金を払えば乗車券は常に不要となる。
3. 特急料金は宿泊施設が決める。
4. 特急料金は旅行保険料の別名である。

答え・解説

正答：1. 特急列車を利用する場合、乗車券とは別に特急料金が必要となる。

解説：特急料金では「特急列車を利用する場合、乗車券とは別に特急料金が必要となる。」が基本です。

要点：特急料金

Q109

TRAVEL-0629

指定席料金 / 4折 / 基礎

指定席料金に関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 指定席料金は航空券の燃油サーチャージである。
2. 指定席を利用する場合、自由席と異なる料金設定となることがある。
3. 指定席は無料で必ず利用できる。
4. 指定席料金は旅行業登録料である。

答え・解説

正答：2. 指定席を利用する場合、自由席と異なる料金設定となることがある。

解説：指定席料金では「指定席を利用する場合、自由席と異なる料金設定となることがある。」が基本です。

要点：指定席料金

Q110

TRAVEL-0630

グリーン料金 / 4折 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、グリーン料金で正しい理解はどれか。

1. 普通運賃に必ず含まれ追加不要である。
2. 旅券申請時の手数料である。
3. グリーン車等の上級設備を利用する場合に必要な料金である。
4. 宿泊施設の入湯税である。

答え・解説

正答：3. グリーン車等の上級設備を利用する場合に必要な料金である。

解説：グリーン料金では「グリーン車等の上級設備を利用する場合に必要な料金である。」が基本です。

要点：グリーン料金

Q111

TRAVEL-0631

寝台料金 / 4折 / 標準

寝台料金に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 寝台料金は国内航空券の空港使用料である。
2. 寝台設備を利用する列車では、寝台の種類に応じた料金が必要となる。
3. 国内航空運賃は航空会社・路線・予約条件・時期により変動する。
4. 一定人数以上が同一行程で利用する場合、団体運賃・割引が設定されることがある。

答え・解説

正答：1. 寝台料金は国内航空券の空港使用料である。

解説：誤りは「寝台料金は国内航空券の空港使用料である。」。寝台料金では「寝台設備を利用する列車では、寝台の種類に応じた料金が必要となる。」が基本です。

要点：寝台料金

Q112

TRAVEL-0632

小児の扱い / 4折 / 応用

次の事例で、小児の扱いの観点から最も適切な対応はどれか。

1. 小児運賃は海外航空券だけの制度である。
2. 小児はすべての交通機関で無料である。
3. 小児は必ず大人と同額である。
4. 小児は大人の半額相当など、年齢区分に応じた運賃・料金の扱いがある。

答え・解説

正答：4. 小児は大人の半額相当など、年齢区分に応じた運賃・料金の扱いがある。

解説：小児の扱いでは「小児は大人の半額相当など、年齢区分に応じた運賃・料金の扱いがある。」が基本です。

要点：小児の扱い

Q113

TRAVEL-0633

団体運賃 / 4折 / 基礎

団体運賃に関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 団体運賃は1名旅行だけに適用される。
2. 一定人数以上が同一行程で利用する場合、団体運賃・割引が設定されることがある。
3. 団体運賃は旅行者が自由に作れる。
4. 団体運賃は宿泊約款でのみ決まる。

答え・解説

正答：2. 一定人数以上が同一行程で利用する場合、団体運賃・割引が設定されることがある。

解説：団体運賃では「一定人数以上が同一行程で利用する場合、団体運賃・割引が設定されることがある。」が基本です。

要点：団体運賃

Q114

TRAVEL-0634

航空運賃 / 4折 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、航空運賃で正しい理解はどれか。

1. 航空運賃はJR営業キロだけで決まる。
2. 航空運賃は宿泊施設が決定する。
3. 国内航空運賃は航空会社・路線・予約条件・時期により変動する。
4. 国内航空運賃は全国一律で固定される。

答え・解説

正答：3. 国内航空運賃は航空会社・路線・予約条件・時期により変動する。

解説：航空運賃では「国内航空運賃は航空会社・路線・予約条件・時期により変動する。」が基本です。

要点：航空運賃

Q115

TRAVEL-0635

航空券の予約変更 / 4折 / 標準

航空券の予約変更に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. どの航空券も無料で何度でも変更できる。
2. 宿泊料金は宿泊日、人数、食事条件、客室タイプなどで変わる。
3. 予約変更の可否や手数料は運賃種別・航空会社規則により異なる。
4. 運賃・料金・宿泊費・手配手数料等を区分し、旅行者が総額を把握できるようにする。

答え・解説

正答：1. どの航空券も無料で何度でも変更できる。

解説：誤りは「どの航空券も無料で何度でも変更できる。」。航空券の予約変更では「予約変更の可否や手数料は運賃種別・航空会社規則により異なる。」が基本です。

要点：航空券の予約変更

Q116

TRAVEL-0636

取消手数料 / 4択 / 応用

次の事例で、取消手数料の観点から最も適切な対応はどれか。

1. 取消手数料は旅行者が任意に金額を決める。
2. 取消手数料は関税の一種である。
3. 運賃種別や取消時期により、払戻手数料・取消手数料が発生することがある。
4. 取消手数料は必ずゼロである。

答え・解説

正答：3. 運賃種別や取消時期により、払戻手数料・取消手数料が発生することがある。

解説：取消手数料では「運賃種別や取消時期により、払戻手数料・取消手数料が発生することがある。」が基本です。

要点：取消手数料

Q117

TRAVEL-0637

旅行見積書 / 4択 / 基礎

旅行見積書に関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 見積書では旅行代金の総額を隠す。
2. 見積書には交通費を含めてはならない。
3. 見積書は旅行終了後にだけ作成する。
4. 運賃・料金・宿泊費・手配手数料等を区分し、旅行者が総額を把握できるようにする。

答え・解説

正答：4. 運賃・料金・宿泊費・手配手数料等を区分し、旅行者が総額を把握できるようにする。

解説：旅行見積書では「運賃・料金・宿泊費・手配手数料等を区分し、旅行者が総額を把握できるようにする。」が基本です。

要点：旅行見積書

Q118

TRAVEL-0638

宿泊料金 / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、宿泊料金で正しい理解はどれか。

1. 宿泊料金は宿泊日、人数、食事条件、客室タイプなどで変わる。
2. 宿泊料金は旅券の残存期間で決まる。
3. 宿泊料金は全国一律である。
4. 宿泊料金は鉄道営業キロだけで決まる。

答え・解説

正答：1. 宿泊料金は宿泊日、人数、食事条件、客室タイプなどで変わる。

解説：宿泊料金では「宿泊料金は宿泊日、人数、食事条件、客室タイプなどで変わる。」が基本です。

要点：宿泊料金

Q119

TRAVEL-0639

入湯税など / 4択 / 標準

入湯税などに関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。（確認2）

1. 入湯税は国際航空券に必ず含まれる。
2. 温泉地等では宿泊料金とは別に入湯税等が発生することがある。
3. 出発駅から到着駅まで同一方向に進む基本的な乗車券である。
4. 同一区間を行きと帰りで利用する乗車券である。

答え・解説

正答：1. 入湯税は国際航空券に必ず含まれる。

解説：誤りは「入湯税は国際航空券に必ず含まれる。」。入湯税などでは「温泉地等では宿泊料金とは別に入湯税等が発生することがある。」が基本です。

要点：入湯税など

Q120

TRAVEL-0640

運賃と料金の区別 / 4択 / 応用

次の事例で、運賃と料金の区別の観点から最も適切な対応はどれか。

1. 運賃は旅行保険料だけを指す。
2. 運賃は移動区間に対する基本的対価、料金は特急・指定席等の追加サービス対価である。
3. 料金は宿泊税だけを指す。
4. 運賃と料金は常に同じ意味である。

答え・解説

正答：2. 運賃は移動区間に対する基本的対価、料金は特急・指定席等の追加サービス対価である。

解説：運賃と料金の区別では「運賃は移動区間に対する基本的対価、料金は特急・指定席等の追加サービス対価である。」が基本です。

要点：運賃と料金の区別

Q121

TRAVEL-0641

JR片道乗車券 / 4択 / 基礎

JR片道乗車券に関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 出発駅から到着駅まで同一方向に進む基本的な乗車券である。
2. 同一区間を往復する券だけを指す。
3. 宿泊予約確認書である。
4. 航空券の乗継証明である。

答え・解説

正答：1. 出発駅から到着駅まで同一方向に進む基本的な乗車券である。

解説：JR片道乗車券では「出発駅から到着駅まで同一方向に進む基本的な乗車券である。」が基本です。

要点：JR片道乗車券

Q122

TRAVEL-0642

往復乗車券 / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、往復乗車券で正しい理解はどれか。

1. 同一区間を行きと帰りで利用する乗車券である。
2. 特急券を2枚買うことを指す。
3. ホテル2泊分の予約を指す。
4. 片道区間を複数に分けた券だけである。

答え・解説

正答：1. 同一区間を行きと帰りで利用する乗車券である。

解説：往復乗車券では「同一区間を行きと帰りで利用する乗車券である。」が基本です。

要点：往復乗車券

Q123

TRAVEL-0643

連続乗車券 / 4択 / 標準

連続乗車券に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 同じ駅を出発・到着にする往復券だけを指す。
2. 片道・往復では扱いにくい複数区間を連続して利用する乗車券である。
3. 指定席を利用する場合、自由席と異なる料金設定となることがある。
4. 特急列車を利用する場合、乗車券とは別に特急料金が必要となる。

答え・解説

正答：1. 同じ駅を出発・到着にする往復券だけを指す。

解説：誤りは「同じ駅を出発・到着にする往復券だけを指す。」。連続乗車券では「片道・往復では扱いにくい複数区間を連続して利用する乗車券である。」が基本です。

要点：連続乗車券

Q124

TRAVEL-0644

普通運賃計算 / 4択 / 応用

次の事例で、普通運賃計算の観点から最も適切な対応はどれか。

1. 添乗員の経験年数だけで決まる。
2. 鉄道の普通運賃は原則として営業キロ等を基礎に計算される。
3. 乗車人数にかかわらず旅行者の年齢だけで決まる。
4. ホテルの客室面積だけで決まる。

答え・解説

正答：2. 鉄道の普通運賃は原則として営業キロ等を基礎に計算される。

解説：普通運賃計算では「鉄道の普通運賃は原則として営業キロ等を基礎に計算される。」が基本です。

要点：普通運賃計算

Q125

TRAVEL-0645

特急料金 / 4択 / 基礎

特急料金に関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 特急料金は宿泊施設が決める。
2. 特急列車を利用する場合、乗車券とは別に特急料金が必要となる。
3. 特急料金を払えば乗車券は常に不要となる。
4. 特急料金は旅行保険料の別名である。

答え・解説

正答：2. 特急列車を利用する場合、乗車券とは別に特急料金が必要となる。

解説：特急料金では「特急列車を利用する場合、乗車券とは別に特急料金が必要となる。」が基本です。

要点：特急料金

Q126

TRAVEL-0646

指定席料金 / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、指定席料金で正しい理解はどれか。

1. 指定席を利用する場合、自由席と異なる料金設定とすることができる。
2. 指定席は無料で必ず利用できる。
3. 指定席料金は航空券の燃油サーチャージである。
4. 指定席料金は旅行業登録料である。

答え・解説

正答：1. 指定席を利用する場合、自由席と異なる料金設定とすることができる。

解説：指定席料金では「指定席を利用する場合、自由席と異なる料金設定とすることができる。」が基本です。

要点：指定席料金

Q127

TRAVEL-0647

グリーン料金 / 4択 / 標準

グリーン料金に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 一定人数以上が同一行程で利用する場合、団体運賃・割引が設定されることがある。
2. グリーン車等の上級設備を利用する場合に必要な料金である。
3. 小児は大人の半額相当など、年齢区分に応じた運賃・料金の扱いがある。
4. 普通運賃に必ず含まれ追加不要である。

答え・解説

正答：4. 普通運賃に必ず含まれ追加不要である。

解説：誤りは「普通運賃に必ず含まれ追加不要である。」。グリーン料金では「グリーン車等の上級設備を利用する場合に必要な料金である。」が基本です。

要点：グリーン料金

Q128

TRAVEL-0648

寝台料金 / 4択 / 応用

次の事例で、寝台料金の観点から最も適切な対応はどれか。

1. 寝台料金は国内航空券の空港使用料である。
2. 寝台設備を利用する列車では、寝台の種類に応じた料金が必要となる。
3. 寝台料金は旅行相談料の別名である。
4. 寝台料金を払えば宿泊施設代が不要になる。

答え・解説

正答：2. 寝台設備を利用する列車では、寝台の種類に応じた料金が必要となる。

解説：寝台料金では「寝台設備を利用する列車では、寝台の種類に応じた料金が必要となる。」が基本です。

要点：寝台料金

Q129

TRAVEL-0649

小児の扱い / 4択 / 基礎

小児の扱いに関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 小児運賃は海外航空券だけの制度である。
2. 小児は必ず大人と同額である。
3. 小児はすべての交通機関で無料である。
4. 小児は大人の半額相当など、年齢区分に応じた運賃・料金の扱いがある。

答え・解説

正答：4. 小児は大人の半額相当など、年齢区分に応じた運賃・料金の扱いがある。

解説：小児の扱いでは「小児は大人の半額相当など、年齢区分に応じた運賃・料金の扱いがある。」が基本です。

要点：小児の扱い

Q130

TRAVEL-0650

団体運賃 / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、団体運賃で正しい理解はどれか。

1. 一定人数以上が同一行程で利用する場合、団体運賃・割引が設定されることがある。
2. 団体運賃は旅行者が自由に作れる。
3. 団体運賃は宿泊約款でのみ決まる。
4. 団体運賃は1名旅行だけに適用される。

答え・解説

正答：1. 一定人数以上が同一行程で利用する場合、団体運賃・割引が設定されることがある。

解説：団体運賃では「一定人数以上が同一行程で利用する場合、団体運賃・割引が設定されることがある。」が基本です。

要点：団体運賃

Q131

TRAVEL-0651

航空運賃 / 4択 / 標準

航空運賃に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 運賃・料金・宿泊費・手配手数料等を区分し、旅行者が総額を把握できるようにする。
2. 国内航空運賃は全国一律で固定される。
3. 運賃種別や取消時期により、払戻手数料・取消手数料が発生することがある。
4. 国内航空運賃は航空会社・路線・予約条件・時期により変動する。

答え・解説

正答：2. 国内航空運賃は全国一律で固定される。

解説：誤りは「国内航空運賃は全国一律で固定される。」。航空運賃では「国内航空運賃は航空会社・路線・予約条件・時期により変動する。」が基本です。

要点：航空運賃

Q132

TRAVEL-0652

航空券の予約変更 / 4択 / 応用

次の事例で、航空券の予約変更の観点から最も適切な対応はどれか。

1. どの航空券も無料で何度でも変更できる。
2. 予約変更は旅券事務所だけが行う。
3. 航空券は発券後に絶対変更できない。
4. 予約変更の可否や手数料は運賃種別・航空会社規則により異なる。

答え・解説

正答：4. 予約変更の可否や手数料は運賃種別・航空会社規則により異なる。

解説：航空券の予約変更では「予約変更の可否や手数料は運賃種別・航空会社規則により異なる。」が基本です。

要点：航空券の予約変更

Q133

TRAVEL-0653

取消手数料 / 4択 / 基礎

取消手数料に関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 取消手数料は旅行者が任意に金額を決める。
2. 取消手数料は関税の一種である。
3. 運賃種別や取消時期により、払戻手数料・取消手数料が発生することがある。
4. 取消手数料は必ずゼロである。

答え・解説

正答：3. 運賃種別や取消時期により、払戻手数料・取消手数料が発生することがある。

解説：取消手数料では「運賃種別や取消時期により、払戻手数料・取消手数料が発生することがある。」が基本です。

要点：取消手数料

Q134

TRAVEL-0654

旅行見積書 / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、旅行見積書で正しい理解はどれか。

1. 見積書は旅行終了後にだけ作成する。
2. 運賃・料金・宿泊費・手配手数料等を区分し、旅行者が総額を把握できるようにする。
3. 見積書では旅行代金の総額を隠す。
4. 見積書には交通費を含めてはならない。

答え・解説

正答：2. 運賃・料金・宿泊費・手配手数料等を区分し、旅行者が総額を把握できるようにする。

解説：旅行見積書では「運賃・料金・宿泊費・手配手数料等を区分し、旅行者が総額を把握できるようにする。」が基本です。

要点：旅行見積書

Q135

TRAVEL-0655

宿泊料金 / 4択 / 標準

宿泊料金に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 宿泊料金は宿泊日、人数、食事条件、客室タイプなどで変わる。
2. 宿泊料金は鉄道営業キロだけで決まる。
3. 運賃は移動区間に対する基本的対価、料金は特急・指定席等の追加サービス対価である。
4. 出発駅から到着駅まで同一方向に進む基本的な乗車券である。

答え・解説

正答：2. 宿泊料金は鉄道営業キロだけで決まる。

解説：誤りは「宿泊料金は鉄道営業キロだけで決まる。」。宿泊料金では「宿泊料金は宿泊日、人数、食事条件、客室タイプなどで変わる。」が基本です。

要点：宿泊料金

Q136

TRAVEL-0656

入湯税など / 4択 / 応用

次の事例で、入湯税などの観点から最も適切な対応はどれか。

1. 温泉地等では宿泊料金とは別に入湯税等が発生することがある。
2. 入湯税は国際航空券に必ず含まれる。
3. 入湯税は旅行業者が自由に作る割引名である。
4. 入湯税は旅券申請手数料である。

答え・解説

正答：1. 温泉地等では宿泊料金とは別に入湯税等が発生することがある。
解説：入湯税などでは「温泉地等では宿泊料金とは別に入湯税等が発生することがある。」が基本です。

要点：入湯税など

Q137

TRAVEL-0657

運賃と料金の区別 / 4択 / 基礎

運賃と料金の区別に関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 運賃と料金は常に同じ意味である。
2. 運賃は旅行保険料だけを指す。
3. 料金は宿泊税だけを指す。
4. 運賃は移動区間に対する基本的対価、料金は特急・指定席等の追加サービス対価である。

答え・解説

正答：4. 運賃は移動区間に対する基本的対価、料金は特急・指定席等の追加サービス対価である。

解説：運賃と料金の区別では「運賃は移動区間に対する基本的対価、料金は特急・指定席等の追加サービス対価である。」が基本です。

要点：運賃と料金の区別

Q138

TRAVEL-0658

JR片道乗車券 / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、JR片道乗車券で正しい理解はどれか。

1. 出発駅から到着駅まで同一方向に進む基本的な乗車券である。
2. 宿泊予約確認書である。
3. 航空券の乗継証明である。
4. 同一区間を往復する券だけを指す。

答え・解説

正答：1. 出発駅から到着駅まで同一方向に進む基本的な乗車券である。

解説：JR片道乗車券では「出発駅から到着駅まで同一方向に進む基本的な乗車券である。」が基本です。

要点：JR片道乗車券

Q139

TRAVEL-0659

往復乗車券 / 4択 / 標準

往復乗車券に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 片道区間を複数に分けた券だけである。
2. 同一区間を行きと帰りで利用する乗車券である。
3. 鉄道の普通運賃は原則として営業キロ等を基礎に計算される。
4. 特急列車を利用する場合、乗車券とは別に特急料金が必要となる。

答え・解説

正答：1. 片道区間を複数に分けた券だけである。

解説：誤りは「片道区間を複数に分けた券だけである。」。往復乗車券では「同一区間を行きと帰りで利用する乗車券である。」が基本です。

要点：往復乗車券

Q140

TRAVEL-0660

連続乗車券 / 4択 / 応用

次の事例で、連続乗車券の観点から最も適切な対応はどれか。

1. 宿泊約款上の連泊割引である。
2. 同じ駅を出発・到着にする往復券だけを指す。
3. 片道・往復では扱いにくい複数区間を連続して利用する乗車券である。
4. 航空券のオープンジョーだけを意味する。

答え・解説

正答：3. 片道・往復では扱いにくい複数区間を連続して利用する乗車券である。

解説：連続乗車券では「片道・往復では扱いにくい複数区間を連続して利用する乗車券である。」が基本です。

要点：連続乗車券

Q141

TRAVEL-0661

普通運賃計算 / 4択 / 基礎

普通運賃計算に関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 鉄道の普通運賃は原則として営業キロ等を基礎に計算される。
2. 乗車人数にかかわらず旅行者の年齢だけで決まる。
3. 添乗員の経験年数だけで決まる。
4. ホテルの客室面積だけで決まる。

答え・解説

正答：1. 鉄道の普通運賃は原則として営業キロ等を基礎に計算される。

解説：普通運賃計算では「鉄道の普通運賃は原則として営業キロ等を基礎に計算される。」が基本です。

要点：普通運賃計算

Q142

TRAVEL-0662

特急料金 / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、特急料金で正しい理解はどれか。

1. 特急列車を利用する場合、乗車券とは別に特急料金が必要となる。
2. 特急料金を払えば乗車券は常に不要となる。
3. 特急料金は宿泊施設が決める。
4. 特急料金は旅行保険料の別名である。

答え・解説

正答：1. 特急列車を利用する場合、乗車券とは別に特急料金が必要となる。

解説：特急料金では「特急列車を利用する場合、乗車券とは別に特急料金が必要となる。」が基本です。

要点：特急料金

Q143

TRAVEL-0663

指定席料金 / 4択 / 標準

指定席料金に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 寝台設備を利用する列車では、寝台の種類に応じた料金が必要となる。
2. 小児は大人の半額相当など、年齢区分に応じた運賃・料金の扱いがある。
3. 指定席は無料で必ず利用できる。
4. 指定席を利用する場合、自由席と異なる料金設定となることがある。

答え・解説

正答：3. 指定席は無料で必ず利用できる。

解説：誤りは「指定席は無料で必ず利用できる。」。指定席料金では「指定席を利用する場合、自由席と異なる料金設定となることがある。」が基本です。

要点：指定席料金

Q144

TRAVEL-0664

グリーン料金 / 4択 / 応用

次の事例で、グリーン料金の観点から最も適切な対応はどれか。

1. 宿泊施設の入湯税である。
2. 普通運賃に必ず含まれ追加不要である。
3. グリーン車等の上級設備を利用する場合に必要な料金である。
4. 旅券申請時の手数料である。

答え・解説

正答：3. グリーン車等の上級設備を利用する場合に必要な料金である。

解説：グリーン料金では「グリーン車等の上級設備を利用する場合に必要な料金である。」が基本です。

要点：グリーン料金

Q145

TRAVEL-0665

寝台料金 / 4択 / 基礎

寝台料金に関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 寝台料金は国内航空券の空港使用料である。
2. 寝台設備を利用する列車では、寝台の種類に応じた料金が必要となる。
3. 寝台料金は旅行相談料の別名である。
4. 寝台料金を払えば宿泊施設代が不要になる。

答え・解説

正答：2. 寝台設備を利用する列車では、寝台の種類に応じた料金が必要となる。

解説：寝台料金では「寝台設備を利用する列車では、寝台の種類に応じた料金が必要となる。」が基本です。

要点：寝台料金

Q146

TRAVEL-0666

小児の扱い / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、小児の扱いで正しい理解はどれか。

1. 小児は大人の半額相当など、年齢区分に応じた運賃・料金の扱いがある。
2. 小児はすべての交通機関で無料である。
3. 小児は必ず大人と同額である。
4. 小児運賃は海外航空券だけの制度である。

答え・解説

正答：1. 小児は大人の半額相当など、年齢区分に応じた運賃・料金の扱いがある。

解説：小児の扱いでは「小児は大人の半額相当など、年齢区分に応じた運賃・料金の扱いがある。」が基本です。

要点：小児の扱い

Q147

TRAVEL-0667

団体運賃 / 4択 / 標準

団体運賃に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 団体運賃は1名旅行だけに適用される。
2. 一定人数以上が同一行程で利用する場合、団体運賃・割引が設定されることがある。
3. 運賃種別や取消時期により、払戻手数料・取消手数料が発生することがある。
4. 予約変更の可否や手数料は運賃種別・航空会社規則により異なる。

答え・解説

正答：1. 団体運賃は1名旅行だけに適用される。

解説：誤りは「団体運賃は1名旅行だけに適用される。」。団体運賃では「一定人数以上が同一行程で利用する場合、団体運賃・割引が設定されることがある。」が基本です。

要点：団体運賃

Q148

TRAVEL-0668

航空運賃 / 4択 / 応用

次の事例で、航空運賃の観点から最も適切な対応はどれか。

1. 航空運賃は宿泊施設が決定する。
2. 国内航空運賃は全国一律で固定される。
3. 国内航空運賃は航空会社・路線・予約条件・時期により変動する。
4. 航空運賃はJR営業キロだけで決まる。

答え・解説

正答：3. 国内航空運賃は航空会社・路線・予約条件・時期により変動する。

解説：航空運賃では「国内航空運賃は航空会社・路線・予約条件・時期により変動する。」が基本です。

要点：航空運賃

Q149

TRAVEL-0669

航空券の予約変更 / 4択 / 基礎

航空券の予約変更に関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 航空券は発券後に絶対変更できない。
2. 予約変更の可否や手数料は運賃種別・航空会社規則により異なる。
3. どの航空券も無料で何度でも変更できる。
4. 予約変更は旅券事務所だけが行う。

答え・解説

正答：2. 予約変更の可否や手数料は運賃種別・航空会社規則により異なる。

解説：航空券の予約変更では「予約変更の可否や手数料は運賃種別・航空会社規則により異なる。」が基本です。

要点：航空券の予約変更

Q150

TRAVEL-0670

取消手数料 / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、取消手数料で正しい理解はどれか。

1. 取消手数料は関税の一種である。
2. 取消手数料は必ずゼロである。
3. 運賃種別や取消時期により、払戻手数料・取消手数料が発生することがある。
4. 取消手数料は旅行者が任意に金額を決める。

答え・解説

正答：3. 運賃種別や取消時期により、払戻手数料・取消手数料が発生することがある。

解説：取消手数料では「運賃種別や取消時期により、払戻手数料・取消手数料が発生することがある。」が基本です。

要点：取消手数料